

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム内の職員の目につく場所に理念の文言を掲げ、利用者様が理念に基づいた生活を送れるよう努力している。	理念については来訪者にもわかるように玄関に掲示し、共有に努めている。月1回の職員ミーティングの際には理念の中のキーワード、「共に」、の持つ意味を確認し合い、日々の支援に反映するようにしている。家族に対しては利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍継続のため、現在は外出等できず交流がほとんどない状況となっている。再開ができそうであれば積極的に交流をしたい。	コロナ禍の状況が長引き、地域との交流が思うように出来ていない。そうした中、地域の農家の方から畑を借りて職員が野菜の栽培を行い、食事作りに役立っている。また、地区のお年寄りが時折立ち寄って、お茶を飲みながら利用者と交流している。更に、今年度は職員が付き添い、利用者が文化会館で行われたコンサート鑑賞に出掛け楽しいひと時を過ごしている。昨年9月に現管理者に交代になったことを機会に、小学校、保育園等との交流に向けた働きかけを進めたいという意向を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記同様、現在は交流がほぼないが、以前よりは近所の方々の理解が広がってきていると感じる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の現状報告し推進委員の意見を取り入れ、指導については真摯に受け止めサービス改善に努める様にしている。	2ヶ月に1回、偶数月に、地域包括支援センター職員、民生委員、ホーム関係者の出席で開催している。事故・ヒヤリハット、利用者状況、行事等を報告後、意見交換等を行い、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議の構成メンバーの枠を広げ、多方面からの意見や助言、協力などを頂き、更に、地域に開かれ親しまれるグループホームとして活動されていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故等があった際には市と情報の共有をできるような体制にしている。	市長寿支援課には事故・ヒヤリハット報告等を速やかに行い連携を深め、様々な事柄について相談している。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し、ケアマネジャーが現況について話している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を出来る限りしないよう介護ができるよう努めている。拘束が必要な場合にはご家族への説明と同意書を取り、職員への周知をするようにしている。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。外出傾向の強い利用者も現在はなく、玄関は日中開錠されており、ドアの取っ手には鈴を付け、開閉を知らせるように工夫している。また、定期的に利用者一人ひとりの所在確認を行い、安全確保に繋げている。そうした中、転倒・転落の危険のある方がおり、家族と相談の上センサーマットを使用している。年1回、身体拘束に関する研修会を行い、合わせて、3ヶ月に1回行われる身体拘束適正化委員会で拘束に対する意識を高め、拘束ゼロに向けた支援に取り組んでいる。	

グループホームこころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の際に虐待防止についての研修会を開催した。虐待があった場合には対応できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している方はおらず、その制度について学ぶ機会をとれていないため、今後必要に応じてそういった機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前から生活～退所、またターミナルケアなどを説明し、ご家族が納得されてから入所されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の状況を常に把握し、大切に受け止めて、ご家族様に報告。利用者、家族の意見をお聞きしながら、状況によっては外部へ繋げ運営に反映しています。	家族の面会については、昨年5月のコロナ5類への移行を受け、現在、感染対策を取った上でホーム内で20分位を目安に対面で行っている。コロナ5類への移行後、多く見えられる家族は2週間に1回ほど来訪し、利用者も歓迎している。利用者のホームでの生活の様子はケアマネジャーが電話や面会時にきめ細かく家族に報告している。家族会の開催がまだ出来ていないが、来年度から敬老会に合わせて開催出来るように準備を進めて行こうとしている。	2ヶ月に1回、文章のみのお便り「こころ通信」を本部で作成して家族に届けているが、ホームでの生活の様子についてはホーム職員が中心となり写真等も交えながら作成し、家族に届けられることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際に、意見・要望等聞き取りをし運営に反映させている。理事長も参加することがある為、トップへの要望も反映させることが出来ている。	月1回月上旬に職員ミーティングを行っている。連絡事項、利用者一人ひとりの状態確認、行事計画、各種勉強会、意見交換等を行い、業務内容の周知とサービス向上に繋げている。法人として人事考課制度があり、職員は年1回自己評価シートを用いて自己評価を行い、管理者が上長評価を行うとともに面談し、モチベーションアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価をし、意見・質問・要望等、言いにくいことについても記入してもらっている。職員の努力等は出来る限り給与に反映させたいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議や日々の介護をする中で介護力向上に尽力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの関係もあるため、同業者との交流は考えていない。同法人内のグループホームとは連携をとりサービス向上の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の要望を取り入れ、不安なく過ごしていただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り不安なこと等は入所までの間にやり取りをし、入所後も聞きやすい、話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の負担が軽減できるように、他のサービス利用も踏まえて助言できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が職員とともに暮らしを楽しむことを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と同じような思いで寄り添い、ご家族様とともに支えていくことの出来るような関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最近では以前のように馴染みの場所へ行くと言う事はほぼないが、関係者の訪問などあった場合には柔軟に対応している。	家族より連絡のある親戚、お孫さんなどの面会があり、利用者も歓談している。衣類の欲しい物や季節の入替えについては家族に連絡して届けていただき、使い慣れた日用品等については職員が買い物してお渡ししている。携帯電話を持つ方がおり、家族と連絡を取り合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間などお互いの顔を見て話す機会が多い。必要以上に利用者様同士の間に入らないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者側から連絡等があった場合には支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を念頭に置き、その方に合った介護等ができるよう検討し介護計画を立てている。	殆どの利用者は自分の意思を伝えられる。基本的には本人との会話の中から希望を受け止めるようにしている。また、表情や行動からも意向を把握するようにしている。合わせて、耳の不自由な利用者に対しては、近寄ってゆっくりと話しかけるようにしている。入浴時や居室内での1対1での会話の内容を大切に、気づいた事は介護記録に纏め、情報を共有し、出勤時に確認して利用者の意向に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族や全入居先からの情報など聞き取りをし、職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、顔色、排便や行動などから体調の変化をチェックし、心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が介護計画書を確認。短期目標へのモニタリングは、毎月の職員会議時に行っています。課題とケアのあり方については、ご本人、ご家族、関係者と話し合いを行い、意見やアイデアを反映する介護計画書を作成しています。	全職員が利用者一人ひとりの状況把握に努めている。家族の希望は面会時や電話で伺い、更新時前のカンファレンスで職員が意見を出し合い、モニタリングも行い、ケアマネジャーがプランの作成を行っている。長期目標を6ヶ月としプランを作成し、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、は個別記録に記入しています。気づきや工夫については、専用ノートに記載し、共有しています。それに基づいて、職員間で話し合いを行い支援方法を検討し実践や介護計画書の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの心身状況を把握し、ご本人の意向や、ご家族様の意向を擦り合わせ、その時に必要なその人らしい支援を常に心がけ、支援を行っています。		

グループホームこころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域との交流を今年度は控えめました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族様の意向に基づいて決め、受診や往診に繋がっています。かかりつけ医との連携は常に取り、適切な医療が受けられる様、支援をしています。	入居時に医療機関についての希望を聞き、ホームとしての取り組みについて説明している。現在、全利用者が入居前からのかかりつけ医の月1回の往診を受けている。パート看護師が週5日勤務しており、ケアマネジャーと連携を図りながら日々の健康管理を行い、合わせてかかりつけ医との連携を図っている。歯科については必要に応じ近くの歯科医の往診で対応している。その他の専門科目の受診については家族に付き添いをお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の准看護師がかかりつけ医と相談しながら、適切な対応をする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院できるよう医師や看護師と連携し早期退院を目指す。病院の相談員とも連携を図る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族には終末期の話をし急激な変化があったときは、その都度家族に意見を聞いている。終末期はできるだけ穏やかに、ご家族との時間を大切にもらえるよう心がけている。	重度化や終末期の対応については入居時に説明している。入浴や食事が難しい状況となり、終末期を迎えた時には家族の意向を確認の上、医師と連携を取り話し合いの機会を設け、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂き医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に1名の方の看取りを行い、家族はコロナ禍であったが毎日面会に見えら、最期の時を共に過ごすことができ、感謝の言葉を頂いている。看取り中は、利用者を一人にさせないように居室のドアは開けたままにし、職員がきめ細かく顔出しをして心の籠った看取り支援に繋がっている。看取り後は振り返りの時を設け、家族の言葉等を紹介して、次回に繋げるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍だったため、今までやっていた救急救命の訓練ができていないので今年度以降再開させたい。コロナ感染での対応等で、全職員実践力は身につけてきたように感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年9月に消火訓練を行った。ご利用者の方を交えての避難訓練はできていないので一連の流れで行いたい。水害時の訓練として土嚢の作り方や並べ方等も検討していく。	昨年9月、消防署員の参加の下、防災訓練を実施している。水消火器を使っての消火訓練、通報訓練などを行い、緊急連絡網の確認訓練では自宅からホームまでの時間を確認し合い、緊急への備えとしている。近くに川が流れており、来年度は水害想定で1階から2階への垂直避難訓練を行いたいとしている。備蓄として「水」「レトルト食品」「缶詰め」等が3日分、準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待研修会、虐待委員会を定期的に開催し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を常に心がけ、対応しています。	言葉遣いには気配りをし、命令口調にならないようゆとりをもって、ゆっくり話しかけるようにしている。トイレ介助には特に気を使い、ドアを開けて職員同士声を掛け合い、利用者が安心出来るように支援している。また、入浴介助については同性介助を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の自己選択・決定のできるような声かけをできるよう留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、利用者様のペースで過ごしていただけるよう、無理のない生活環境を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で持参した洋服をおしゃれに着ている方もおり、季節に合わせた配慮をしつつご本人の希望に合わせた身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとに食の手仕事を一緒にに行い、おいしいものを作る過程も楽しんでいただいている。	食べることの楽しさを大切に、利用者の見える所で調理をして出来立ての物を温かいうちに提供している。また、職員と共に食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中で食事の時間を楽しんでいる。自力で摂取できる方が半数、一部介助の方が三分の一、全介助の方が若干名という状況である。献立は冷蔵庫の中の食材を見ながら季節感を加味しながら家庭料理中心にお出ししている。また、夏から秋に向けてはホームの畑で栽培した新鮮な野菜を調理に取り入れている。来年度は感染状況を見ながら少人数に分かれ「ファミリーレストラン」に食事に出掛けたいと思っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者各々に応じた食事形態にして職員が栄養バランスを考え美味しく食べていただけるよう支援している。		

グループホームこころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施。必要に応じて歯科往診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間でご利用者様の情報を共有し、各々に合ったトイレ誘導やおむつ交換の時間に配慮している。	自立されている方と全介助の方がそれぞれ若干名ずつで、一部介助の方が半数となっている。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しており、起床時、おやつ時、食事前、就寝前などの定時の声掛けと、合わせて排泄表で状況を確認しながら、また、様子を見て早めに声掛けをしてスムーズな排泄に繋げている。排便については4日間無い場合はコントロールを行い、お茶を中心にコーヒー、牛乳、ジュース等で1日800cc以上の水分摂取に取り組み、排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事をお粥状にし、水分を多めに摂取してもらう、お茶の際に多めに水分を摂取してもらうなど配慮している。それでも出にくい方については薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	暖かくなる午後に入浴を実施。脱衣所など寒くなりやすい為、温度差のないよう暖かくして入浴の時間を楽しくもらえるよう支援している。	一部介助の方とシャワー浴対応の方がそれぞれ三分の一で、清拭対応の方が若干名という状況である。基本的には週2回、入浴を行っており、希望で3回入浴される方がいる。入浴拒否の方もいるが、無理強いをせず、日を変えて対応している。季節により「ゆず湯」「菖蒲湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室以外で休みたいと希望のある際には小上がりの量があるのでそこで休息をとってもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	准看護師が薬の管理や、副作用について他の職員と共有するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の大好きな歌や塗り絵、職員と一緒に体操をするなどご本人のやりたいことが自由にできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者全員そろってというのはできていないが、散歩や隣の同法人施設まで個々に職員付き添いのもと行けるよう支援している。	外出時、独歩の方は若干名で、他の大半の方は車いす使用となっている。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、ベランダに出て周りの畑を見ながらお茶を飲み、外気浴を楽しんでいる。コロナ禍が長引き、外出レクリエーションが行えない状況が続いていたが、来年度は外出計画を立て、少人数に分かれ、ドライブを兼ね季節の花の見学に出掛ける予定である。	

グループホームこころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまで金銭を持たれていた入居者様もいたが、現在に至ってはいません。自己管理ができる入居者様に対しては支援する予定です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎週電話をかけてくるご家族様には、入居者様に電話を代わり話しをして頂いています。また手紙を送って来られるご家族様には職員が代読やご本人様言葉を聞いて代筆し、手紙を送るなどの支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前よりも共有空間が広くなりました。	玄関を入ると季節に合わせた飾り付けがされており、現在は「雛人形」が置かれ、季節を感じる事が出来る。掃除が行き届き、清潔感漂う共用部分は、キッチンから全体が見渡せる造りとなっている。南側の窓から外に出ると広いベランダと畑があり利用者の寛ぎの場となっている。壁には「ぬり絵」等の利用者の作品が飾られ、生活の一端を窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人と接している方が安心して落ち着くからいいと言う入居者様と、独りである方が気を使わなくていいと言う入居者様を職員がしっかり理解し、柔軟に対応して支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドで過ごしたいとか、畳のある和室で過ごしたいとか言うご本人様の希望や意向に耳を傾け、気持ちよく過ごして頂ける居室の空間作りを行っています。	整理整頓が行き届き清潔感漂う居室は十分な広さが確保されている。出来るだけ家で使っていた物を持ち込んでいただき「第2の我が家」として生活していただくようにしている。使い慣れたタンス、イス、テーブル、衣装ケース、ハンガーラック、鏡、テレビ等でレイアウトされた中、自由な日々を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今のできると言う状態を職員は理解し、ご本人様のサポートをしていく中で納得できる日々が送れるように支援しています。		